奈良町の
ちょっといいところを
見て知る秋の1週間
－きたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺－
奈良町見知ル

ならまち

法徳寺
（ほうとくじ）

①歴史・概要

法徳寺は、元興寺旧境内にあり、かつては壮大な堂宇があった場所です。もとは真言宗元興寺別院で多聞院と称したとも伝えられていますが、詳しいことはわかっていません。元興寺の境内が荒廃し、町場となって以降、この地がどのような歴史をたどったのかはっきりとはわかっていませんが、法徳寺という寺号で融通念仏宗に属するようになったのは、慶長10年（1605）、倍巌上人のときからです。それ以前は浄土宗寺院だったといわれています。倍巌上人は中興の祖であり、今も住職は倍巌の姓を継いでいます。

②見どころ

本堂および観音堂に安置されている多くの仏像が見どころです。本堂では、本尊の阿弥陀如来立像（奈良市指定文化財）をはじめ、江戸時代の薬師如来坐像などがあります。台座の墨書から、この本尊はもとは法隆寺にあったと考えられています。観音堂には、中央に阿弥陀三尊像があり、その両脇に西国三十三所の観音像が並んでいます。いずれも江戸時代ごろの作です。

法徳寺は明治10年（1877）と明治25年（1892）に火災に見まわれ、その時本堂、庫裏などのお堂が焼失しました。現在も使われている本堂は、火災の後、天理市長柄にあった天理教の最初期の建物が移築され、寺院形式に改めたものです。庫裏は、東大寺の塔頭（たっちゅう）を譲渡してもらった建物です。

ココも見どころ！

法徳寺の山門の西隣りには、道路に南面して毘沙門堂が建っています。

祀られている毘沙門天は、元興寺伽藍の鬼門除けの天王だと伝わります。以前は当地の北西にある毘沙門町で祀られていたといい、町名の由来にもなっています。

通常、毎年7月14日、15日には、毘沙門天王祭が行われます。本尊が御開帳されるとともに、毘沙門町、十輪院町の町民が参加し、法要、護摩焚きが行われています。

法徳寺毘沙門堂（江戸時代建立）